

(2) 郷土資料の収集

郷土資料は今年度の傾向として、中央の出版社から刊行されるものが増え、特に「目明し金十郎の生涯」、「炎のように火のように」等全国的な話題作となったものもある。県内では歴史春秋社から刊行されるものも多く、「庄司吉之助著作集」、「会津鑑」等は研究者に恩恵を与えている。

また、昨年は自由民権運動100年ということで、「河野広中小伝」、「写真図説・福島自由民権史」、「増補・福島事件」、「高橋由一と三島通庸」、「マイクロフィルム版・会津民史」等の関係資料が刊行された。

本年度に収集した郷土資料は1,847冊で、昨年度より多く、このなかには、前記の図書は勿論のこと、「福島県地名大辞典」、「相馬野馬追」、「公立藤田病院史」、「いわきのお寺」等の労作のほかに「二本松市史 第3巻」、「いわき市史 第11巻」、「原町市史 続編」、「三春町史 第9巻」、「保原町史 第4巻」、「東和町史 第2巻」等を含んでいる。「女傑ジャンヌ（水野仙子著）」のような稀覯本も入手した。

さらに、昨年度に引きつづいて、「(財)福島県文化振興基金」で助成された図書が寄贈され、このなかに「村の野仏たち」、「三貫地遺跡」等がある。

(3) 新館用図書の収集

新館用図書として、基本図書、参考図書、児童図書の研究書等を11,549冊収集した。

2 図書館資料の整備

(1) 蔵書の検討

蔵書については、館内に設けられている収書委員会において、慎重に検討を重ねているが、より適切な蔵書構成を図るため、専門家による蔵書診断を年次計画ですすめている。本年度は芸術部門について実施したが、委員は次のとおりである。

- 磯崎康彦 福島大学助教授 美術史
- 白沢菊夫 〃 助教授 彫刻
- 梅宮英亮 〃 助教授 絵画
- 須田哲夫 〃 助教授 書道
- 平田公子 〃 講師 音楽
- 中村民雄 〃 助手 運動競技

(2) 蔵書目録の刊行

所蔵資料の全息的な活用を図るため、毎年編さんされているもので、本年度は55年度に受入れた3,424冊について、増加図書目録として刊行、市町村教育委員会、公民館、市町村立図書館等に配布した。

第3節 館内奉仕

1 利用状況

資料利用は、公開図書室における館外個人貸出と、調査相談室における館内閲覧が中心となる。登録者数は前

年度に比し、2%増加している。

一般成人の利用は増加しているが、大学生は減少している。これは福島大学の図書館が新築され、各種施設が整備されて、学生は大学内で間にあわせることと、距離的に遠くなったことが原因と考えられる。〔表2～3〕

〔表2〕 館外個人貸出登録者数

(昭和56.4～57.3)

区分	男	女	計	構成比	
勤め人	598	33	928	16%	
自家営業	135	33	168	3	
主婦			538	9.3	
学生	人学	433	439	872	15
	高校	236	389	625	11
	中学	173	202	375	6.5
	各種	20	66	86	1.5
	計	862	1,096	1,958	(34)
無職	137	102	239	4.2	
計	1,732	2,099	3,831	(66.5)	
児童			1,927	33.5	
合計			5,758	100	

〔表3〕 館外個人貸出利用者数

(昭和56.4～57.3)

区分	人員	構成比
勤め人	5,307人	16.5%
自家営業	902	2.8
主婦	3,986	12.4
無職	1,647	5.1
学生・生徒	5,935	18.4
家族券	231	0.7
児童	14,252	44.1
計	32,260	100

開館日数 275日
一日平均利用者数 117人

貸出冊数については、前年度に比し、1%増加している。利用された図書は、文学、社会科学、歴史地誌、芸術部門の順で、文学部門では、現代小説が多く利用されている。また、テレビ等での話題作の利用もめだつた。全体的には、仕事や生活の上で必要な実用書の利用が多かった。

調査相談室では、事典・年鑑類にかぎらず、各種の参考資料を公開しているが、なかでも、郷土資料コーナー(1,200冊)の利用は特に多い。これらの参考資料は、自由閲覧のため、統計にはあられもないが、かくれた利用の多い部門である。同じく公開の各種新聞・雑誌の利用も多かった。今後は、雑誌のバックナンバーをもっとがらに利用できるようにしたい。